2013.5.AGUDAA-V-フィリピン　チャリティーツア報告

団長　亀山正道

日程：2013.年5月3日から5月6日（セントレア空港発着）

活動日：5月4日5日　2日間

場所：マカティ市バランガイ地区　教会内

参加者：日本：歯科医師17名、歯科衛生士　6名、放射線技師2名　計25名

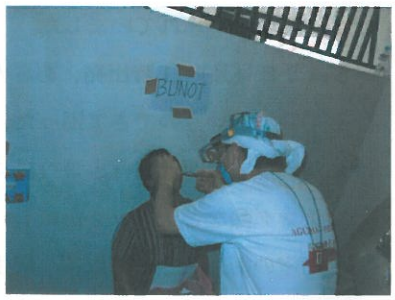
UE大学：歯科医師　16名、　在住歯科医師　1名、自治会支援者多数

【出発前の準備】

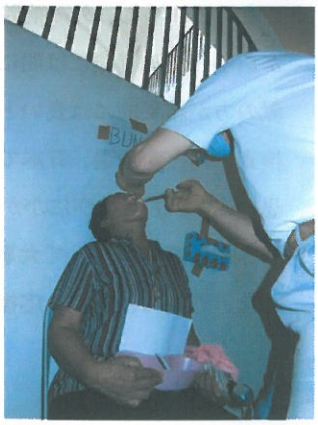
今回のツア準備の段階で、テンポラリーライセンスを取得のための手続きに時間がかかり間際までのバタバタした日々を過ごしました。フィリピン側からの要求する20名参加の歯科医師の書類には、各個人の履歴書はじめ日本の歯科医師免許証の原本、日本語との対訳、比国様式の履歴書、パスポートの写しなどあります。毎年のボランテア活動をしており十分に認知されてはいるものの厳格な事務的な書類を要求してきました。原本をという要求には容認することはできずコピーなる手段を使っていますが、そのため其々の委任状の日本語と英訳のもの両方、すべての書類に委任状あるいは証明書を添付して合わせて300枚ほどの分厚いものになりました。それを公証人役場で認証を受け、法務省、外務省、領事館の経由で赤リボン付の認可された書類が郵送されてくるという手間のかかる手続きをしなければなりません。その後フィリピンサイドで申請手続きをしますが、協働スタッフのUEサイドがチャリーティーを行う趣旨、場所、時間の書かれた書類を提出し、8名の審査員（国家試験の審査員と同じ）によるサインがなければ認められません。フィリピンは日本の様なスピーディな対応は期待できませんので、どうしてもギリギリの時間の対応になり主催者側としてはいつも際どい綱渡りをしています。

テンポラリーが正式に許可確認されたのは出発前1週間でした。

また3月31日には、参加者へのオリエンテーションを行い、今年度の活動内容など説明を行いました。その時点では、まだ仮免許証が下りていませんし、聞かれれば申請中という答えしか答えられません。



5月3日（金） セントレアに午前7時集合、定刻通りに日本を発った。午後1時ごろフィリピン空港に到着、出迎えはおなじみの地元マンゴツア社員、無事税関、荷物検査も通過できた。栗田先生、森先生2名はフィリピン大学での講演のためホテルに向かう我々とは別行動、マニラホテルには2時30分頃到着。すぐにニール先生が出迎えT-シャツを配布後、アジアベーシアのショッピングモールへと繰り出した。フィリピン社会経済もここ数年格段の成長がみられます。各地に大型ショッピングモールがタケノコの様に乱立しています。しかも大きさが半端ではない、各種品揃えで日本では考えられないほどです。その店内では同じ場所に戻ってくるのに苦労するのが常です。夕食はおなじみのタナベレストランで明日からの英気を養いました。



5月4日（土） 朝8時にホテル出発、現地教会活動場所までいくと既にニール、成田先生が設定をしてくれており、持ち込んだ荷物を開封、所定の位置にセット準備にかかった。日本に送られてきた写真情報をみても今回は快適な場所で診療を行えるであろうと予測はしていました。情報通り今までで一番きれいな場所であったかもしれません。9時40分にスタートできた。動線を考慮しての設営は今までの経験が生かされています。今回はタービン関係のコードの手配は十分チェックが入っていたが排水の接続がぴったり合っていなかった。テープで応急処置をしてその場をしのいだ。UEからは10数名のDr.が応援に来てくれUE大学学長、ルシアナ先生はじめ同窓会長のデイ先生も駆けつけ実際に患者さんの問診に当たってくれたりして士気を高めてくれました。

今回、2名の内科医も既往症の問診調査を行い血圧測定、聴診器を当ててくれていました。午前中に100人一日で211人のカウント数になりました。今回はフィリピンのDr.の応援も

ありスムーズに進行ができました。

口腔内は処置されている人もありスケーリングや充填を望む人が多かったのも地域の意識が高いようだ。不思議なことにその教会のすぐ隣には GENERAL DENTISTRY,Orothodontics の看板があり、また 100m も離れていない場所にも DENTAL CLINIC が目についた。設定してくれたサンデー先生に「コンタクトしたか」と聞くと教会の人の了解だけだという。ちょっと日本とは違った感覚がそこにはあるように思います。　参加者の一人の先生の友人がボーイスカウトでフィリピンの活動で子どもたちへ風船を送りたいというので地元のボーイスカウト関係の家族の人たちと 10 名ほどの飛び入り参加もあり賑わいました。

夕食はカマヤン（つかみ取りの意）レストラン、ここもおなじみで各国フィリピンはじめインドネシア、ベトナムなどの料理が各種並んでいるバイキングスタイル、大勢の地元人たちが日本のすしコーナーに並んでいました。ジュースを頼むとぬいぐるみをくれるということで必死に頼む先生も居て愉快な一場面も見せてもらいました。

5 月 5 日（日） 前日に道具は置かせてもらってセット時間は早く終了、9 時からスタート.

9 時から 10 時までは 2 階でミサがあるというので診療に影響があるかと思っていましたが、人数は少なかったが診療には来てくれました。10 時にはミサ終了後、挨拶をということで皆さんの前に立ち紹介されました。地域のカゾリック教徒の根付いた普及活動は浸透しているようです。午後 1 時過ぎまでの診療を考えていましたが、お昼時の 12 時ごろで患者が途絶えてきだので計 349 人の患者を終え、荷物の整理にかかりました。

従って、500 名の見積もりでの消耗品は、現地のボランテアでの活動に使ってもらうよう残してきました。現地の成田先生には、機械器具の整備、消耗品の到達など手配をお願いして大変助かっております。夕刻にはレジェンドレストラン（中華料理）で、UE の先生らと交流パーティーを開催、楽しい歓談に話に花が咲いていました。各所での写真会も行われて時間の経つのも忘れていました。

5 月 6 日（月） 11 時出発、あさの朝食 7 時ごろに食堂にいくと、1 名の衛生士さんが熱を出しているというのでさて困った、旅行社にも相談すると、ぐったりしている人がいるとすぐに別の部屋に連れて行き飛行機には乗せないといいます。特に最近のインフルエンザ、心配なテング熱などチェックが厳しいという。出発までの時間できる限り休んでもらうことにして同室の衛生士さんに依頼、抗生剤、解熱剤をまず服用、ホテルドクターは 11 時しか出てこないというし、外の病院は時間とお金を高く請求し無用な CT まですべて検査をする傾向があるので飛行機には間に合わないだろうという。フィリピンでの処置より日本での早急処置の方が結果的には良いという決断で本人には頑張ってもらい日本に連れ帰った。空港での検査は何とか通過、日本では熱が下がってきたのか無事通過した。きわどい選択であったと思います。もし大病にかかわる問題が発生すれば今後の活動継続にと頭がよぎっていました。皆さんの協力があって大事に至らず帰国できたことことに感謝せねばなりません。

また、ご協力、支援、応援戴いた同窓生の皆さんにも感謝！感謝！感謝！です。